

平成26年度学校評価実施計画

学校名 大分県立大分雄城台高等学校

前年度評価結果の概要	<p>○学校全体が落ち着き、服装・頭髪指導やあいさつ指導が徹底してきて、雄城坂でのあいさつも自然とするようになってきた。</p> <p>○地域や中学校からの評価も高くなり、周辺の中学から上位層が入学してきた。</p> <p>○家庭学習時間が各学年不足している。文武両道を目指し主体的な学習ができるよう、授業改善及び課題の内容や与え方、課題考査の工夫が必要である。</p> <p>○たくましく自立した生徒を育てるために全職員で議論をし、学校が一つになり生徒を育てていく必要がある。</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
「誠実・自主・創造」の校訓のもと、混迷する社会において、逞しく生き抜き、社会をリードし、積極的に貢献できる生徒の育成を目指す。	<p>1 真剣な学習活動と活発な部活動を通して、文武両道を推進する。</p> <p>2 信頼関係に基づいた、手厚い生徒指導と積極的なキャリア教育により、心豊かで、尊敬される人間形成を推進する。</p> <p>3 確かな学力の定着と3年間を見通した進路指導により、進路希望の達成を目指す。</p>	<p>～ 生徒、教職員が高い目標を持ち、気持ちを合わせ、学校全体の活性化を図る。～</p> <p>1 学力向上と3年生全員の第1志望校の合格を目指す。</p> <p>2 高い規範意識を育む中で、生徒自身の自立を促す。</p> <p>3 分掌システムを有効に機能させながら、それぞれの業務内容の確認とさらなる向上を図る。</p> <p>4 創立50周年に向け、県下ナンバーワンの進学校としてシステム作り、基盤作りに取り組む。(10年間の学校推進プランを計画する。)</p>

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
1 学力向上と3年生全員の第1志望校の合格を目指す。	<p>①3年生全員の第1志望校への合格。</p> <p>②生徒の自主自学時間が1年生2時間、2年生3時間、3年生4時間を全員越える。</p> <p>③文武両道を推進し、生徒の部活動及び生徒会活動の加入率80%以上。</p>	<p>第1志望校合格に向けて進路意識・学習意欲の向上、自主的・自発的な学習力を身につけさせる。</p> <p>生徒へ質の高い教育を還元することを目指し、授業改善を図る。</p> <p>家庭学習時間調査を確実にし、情報を共有し、学習の質と量の改善を図る取組を行う。</p> <p>真の文武両道の達成に向け、教職員の意識統一を図る。</p>	<p>①3年間を見通した進路達成計画を作り、各模試毎に第1志望校合格に向けた達成状況の分析会を開催し、個人面談に繋げる。</p> <p>②進路講演会や総学の時間を使い、進路意識の啓発に取り組む。</p> <p>①生徒による授業アンケートを年2回(7月・12月)実施する。</p> <p>②授業探究期間を年2回(6月・10月)設定し、教員全員がお互い授業見学を行う。</p> <p>③管理職による授業観察を行い、指導助言を行う。</p> <p>月に1回家庭学習時間調査結果および進路志望状況をクラス別・部活別に職員に配付し、学習状況を分析し、具体的な指導対策を提示する。</p> <p>①部顧問には競技力向上のための計画的な練習計画を作成させ、生徒には部活動生集いを年間4回開催し、文武両道に向けた指導を行う。</p> <p>②絶対下校を厳守させ、学校全体で家庭学習時間確保の体制づくりを推し進める。</p>	<p>PL 文武両道推進部長、人間力育成部長 SL 各課長、学年主任、HR担任</p> <p>PL 文武両道推進部長、管理職 SL 各課長、学年主任、HR担任 教科主任</p> <p>PL 文武両道推進部長 SL 学習指導課、部顧問、各課長 学年主任 HR担任</p> <p>PL 文武両道推進部長 SL 各課長、部顧問、学年主任 HR担任</p>
2 高い規範意識を育む中で、生徒自身の自立を促す。	<p>①学校の内外であいさつがきちんとできる生徒。</p> <p>②正しい身だしなみが定着した生徒の割合(毎月の頭髪・服装検査において、再検査までに改善した生徒の割合)100%</p> <p>②いじめ0、問題行動0、盗難0の安心・安全な学校。</p>	<p>「雄城坂をあいさつの坂にする」ことを定着させ、「あいさつ」+「ひとこと」運動を実施する。</p> <p>規範意識の向上のために、頭髪・服装検査の徹底。携帯電話については、家庭での使用規定の徹底とネットパトロールを実施する。</p> <p>いじめのない学校づくりのために、「いじめ発見のための先の先」の活用とQ-U調査を実施する。</p> <p>OGIメモを活用させ、生徒のメモ力を養成し、計画性を持ち、自立した学校生活を送らせる。</p>	<p>①新入生のためのマナー講座と全校生徒に向けてのマナー講演会を実施する。</p> <p>②教職員が最高の挨拶をしてみせる。</p> <p>①頭髪・服装検査をクラスで月1回、全校一斉を全職員中心に年2回実施する。</p> <p>②「親と子の携帯電話契約書」の活用と携帯電話の使用実態を把握するため年2回ネットパトロールを実施する。</p> <p>①生徒指導課が月1回の割合で「いじめ発見のための先の先」チェックシートを全職員に配布し、学年会議で活用する。</p> <p>②Q-U調査を年2回(6月・12月)実施し、クラス内での動向を把握させ、学級生活満足度を60%以上にする。</p> <p>終礼時、集会等でOGIメモを持参させ、メモを取る指導を行い、メモを取る習慣を身につけた生徒を育成する。</p>	<p>PL 人間力育成部長 SL 各課長、学年主任、HR担任</p> <p>PL 人間力育成部長 SL 各課長、学年主任、HR担任</p> <p>PL 人間力育成部長 SL 各課長、学年主任、HR担任</p> <p>PL 教育環境企画部長 SL 各課長、学年主任、HR担任</p>
3 分掌システムを有効に機能させながら、それぞれの業務内容の確認とさらなる向上を図る。	<p>①ミドルリーダーの分掌マネジメント力が向上する。</p> <p>②分掌システムが機能し、円滑に業務が回ることで、教員の分掌業務に関する負担感が軽減する。</p> <p>③常に改革に取り組みながら、学校を前に進める意識を教職員が持つ。</p>	<p>学校が抱える課題を明白にして、部・課長会議で十分議論し、情報を共有する。</p> <p>各部・課の目標達成に向け計画どおりに進捗しているか点検を行い、PDCAを確実に実行する。</p> <p>職員意識を「文武両道の推進」「人間力の育成」に基づいた教育活動に繋がるようにする。</p>	<p>課題の解決のために、部や課が何ができるか具体的に学年に提案し、学年の担当が主体的に動く。</p> <p>学校運営企画会議(月1限)→各部・課会議→運営委員会(木4限)→職員会議(月1回)の流れを確実にし、報連相の徹底を図り、具体的に行動する。</p> <p>校長の強いリーダーシップのもと、職員会議等で、具体的に明快な学校経営ビジョンを提示し、職員の共通理解を図る。</p>	<p>PL 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長</p> <p>PL 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長</p> <p>PL 管理職、教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長</p>
4 創立50周年に向け、県下ナンバーワンの進学校としてシステム作り、基盤作りに取り組む。(10年間の学校推進プランを計画する。)	<p>教職員が学校作りに参画し、協働体制の構築を行う中で、新しい教育観を育成する。</p>	<p>10年後の雄城台のあるべき姿を議論する場を設け、進むべき方向を検討する。</p> <p>中学校、地域や保護者に信頼され、敬愛される学校づくりにさらに取り組む。</p>	<p>①毎週月曜に開く学校運営企画会議を雄城台創立50周年に向けた「雄城台ビジョン50」を策定するための諮問機関として機能させる。</p> <p>②全職員で雄城台の将来について議論する全体協議会を年2回開く。</p> <p>①オープンスクールの企画をさらに充実させ、中学校での高校説明会を積極的に行う。</p> <p>②保護者に積極的に声をかけ、PTA総会(報告会を含む)の出席率90%以上を目指す。</p> <p>③学校HP(2週に1回以上更新)や広報誌(毎月発行)を使い、雄城台の今を発信する。</p> <p>④同窓会との連携をさらに強くし、50周年に向けて共同体を作る。</p>	<p>PL 管理職、教委環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長</p> <p>PL 教育環境企画部長 文武両道推進部長 人間力育成部長 SL 各課長</p>